

No.76

境一丁目付近
にて

この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、昨年の春に紅梅が見頃な境一丁目の道沿いで描いたものである。

今年は、オリンピックイヤーということもあって、外国語に力を入れている人が多いようである。私もかつて英語で仕事をしていたことがあり、ほかにフランス語やロシア語にも興味を持ち、語学学校で学んだりしたこともあった。その後、画家になってから、海外へ何度となく行ったが、語学を学んでいたおかげで、言葉で困ることはなかった。

ところで、これまで学んだ外国語で、興味深いと思った言葉を紹介すると、ドイツ語で名前は「ナーメ」、スペイン語で雌牛は「バカ」、フランス語で牛乳は「レ」だが、イタリア語では「ラテ」、それゆえカフェオレとカフェラテの違いがお分かりいただけると思う。ほかに、中国語で頭は「カオ」、韓国語で妻は「アネ」なども印象的。中でも傑作なのは、ギリシャ語で食堂のことを「タベルナ」というのだが、何とも愉快な言葉だと思っている。

大須賀一雄

おおすか かずお

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元 JR 東日本国際課勤務。JR 東日本絵画クラブ初代事務局長。これまで JR 東日本の駅の絵を 1000 点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR 東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで 50 カ国以上を訪れ、個展も 30 回を超える。